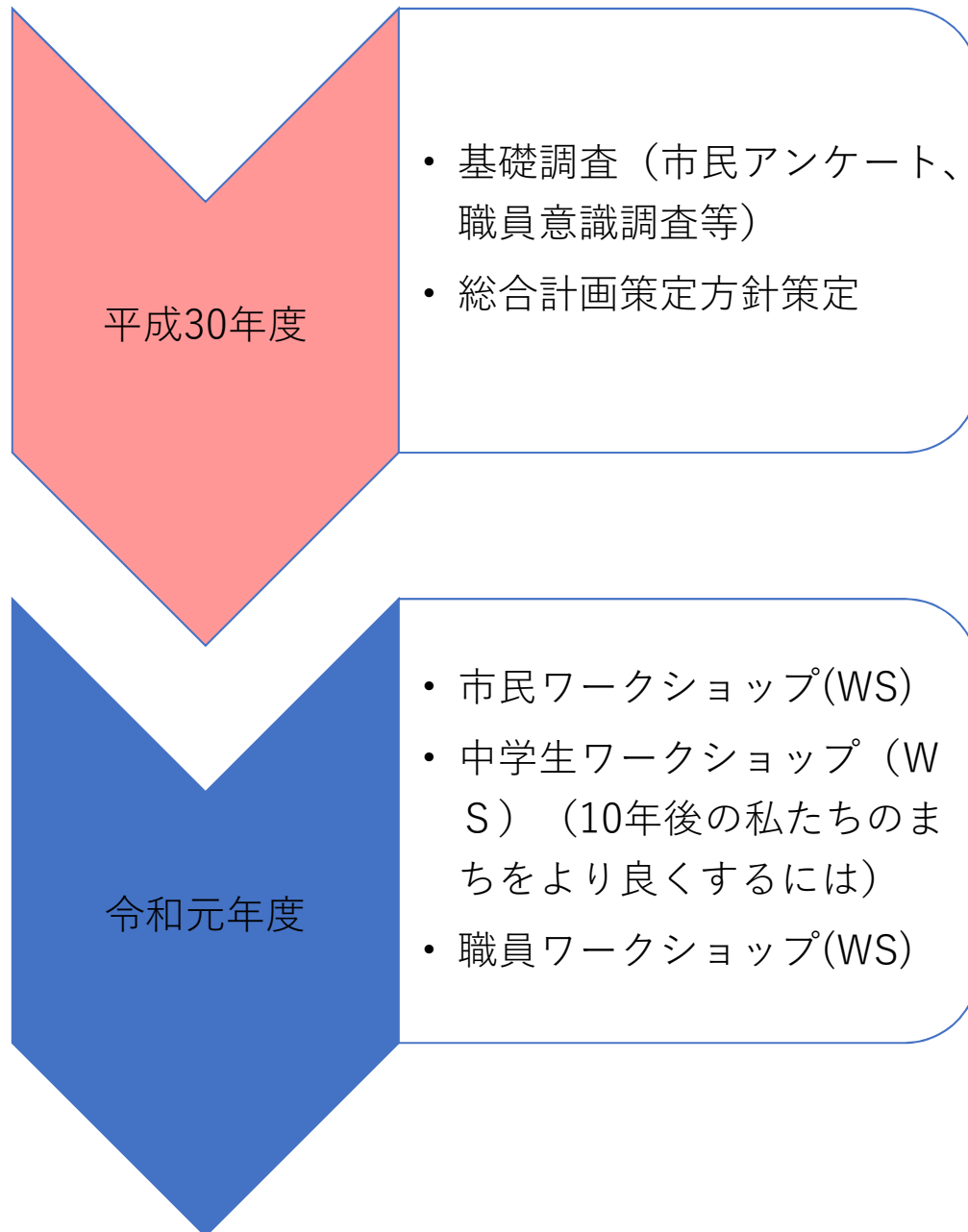


## 【前提】基本構想（たたき台）の根拠となった、各種調査やワークショップ等の整理

◆基本構想（たたき台）の策定にあたり、その根拠となっている各種調査やワークショップ等を下記に整理いたしました。

**1. 基礎調査**

- (1) 社会環境の変化や時代潮流の動向の整理・分析
- (2) 全市的な特性等の整理・分析（統計分析、職員意識調査の分析）
- (3) 上位関連計画や個別計画、課題の整理等
- (4) 市民意識や市民ニーズの把握と分析
- (5) 本市の強み・弱みの整理及び特性の分析

**2. 総合計画策定方針**

- (1) 本市を取り巻く状況
- (2) 現行計画の課題
- (3) 次期総合計画の位置付け及び構成
- (4) 策定に当たっての基本姿勢
- (5) 計画の枠組み
- (6) 計画策定の体制
- (7) 計画策定スケジュール

**①市民ワークショップ（令和元年8～10月、詳細は資料1を参照）**

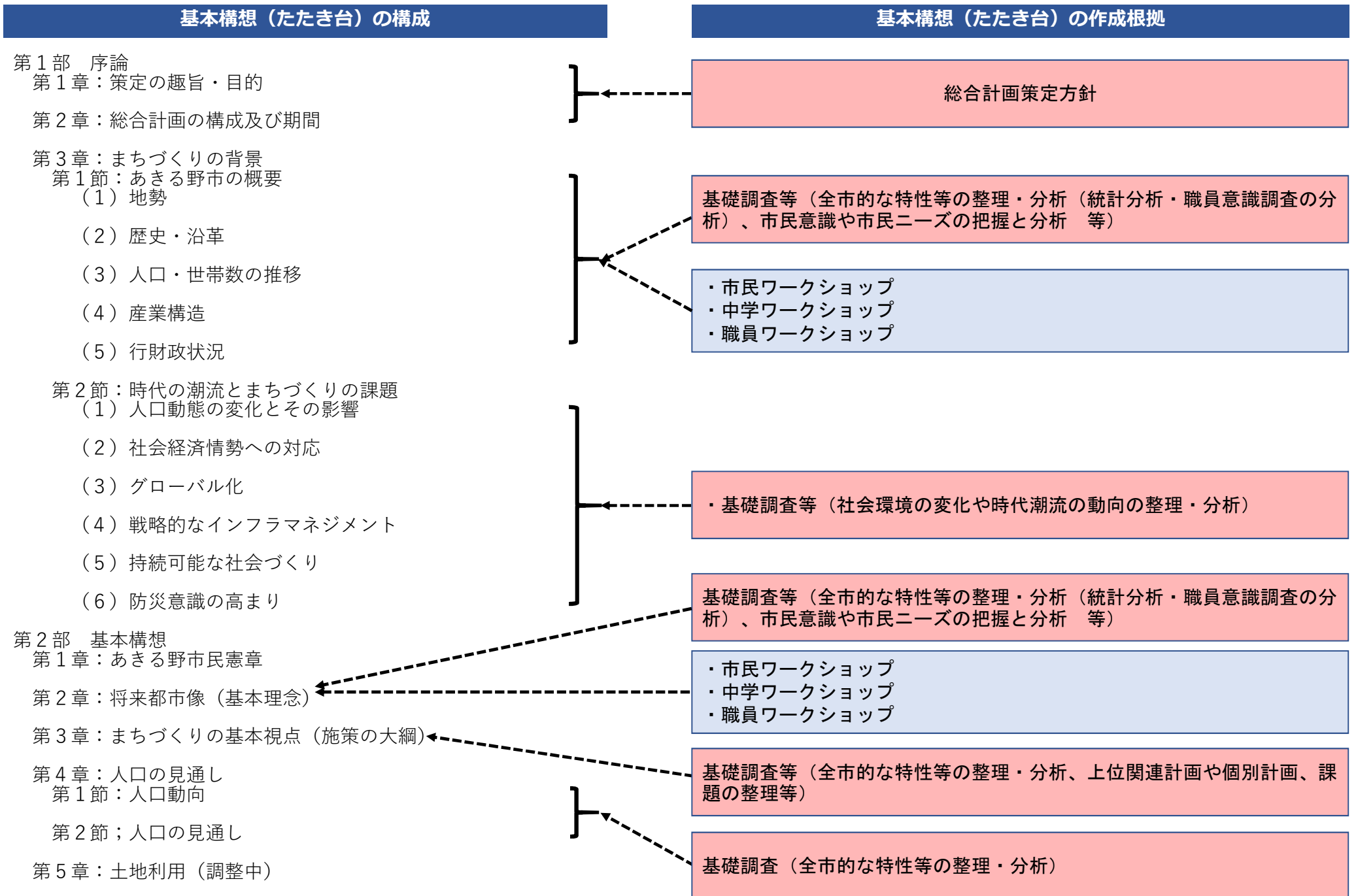
- ・ 目的：総合計画が市民の皆さんにとって共有できる「ビジョン」や「シナリオ」となることを目指し、今年度は特に「ビジョン」（基本構想における将来都市像）について検討
- ・ 概要：
  - <第1回>あきる野市の個性を浮き彫りにしましょう
    - ・ あきる野市の現状に関する各種統計データを確認し、事前のインタビュー等も交えた、参加者自身にとって実感のある、あきる野市における「宝」と「困りごと」を検討
  - <第2回>あきる野市の望ましい将来像を描きましょう
    - ・ 第1回の検討内容を踏まえ、宝（強み）を活かす、あるいは困りごと（弱み）を解消するという視点に立ち、10年後の望ましい将来像を検討

**②中学生ワークショップ（令和元年7月）**

- ・ 目的：友好姉妹都市である、あきる野市と栗原市の中学生を対象に友情や親睦を深める機会として実施
- ・ 概要：今年度の交流テーマとして「10年後の私たちのまちをより良くするには」と設定し、両市の生徒が自分たちの思い描く、市の未来像等を検討し、中学生ができる地域貢献や両市の交流の更なる進展などについて意見交換を実施

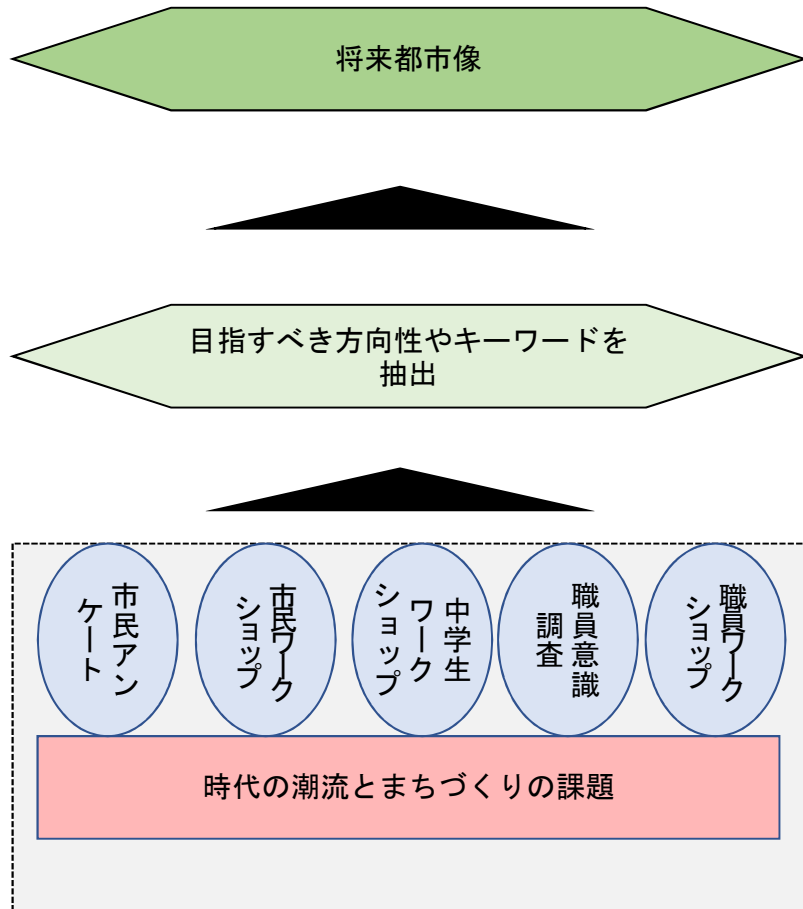
**③職員ワークショップ（令和元年8月）**

- ・ 目的：総合計画が市民だけではなく、市職員にとっても共有できる「ビジョン」や「シナリオ」となることを目指して実施
- ・ 概要：あきる野市の「宝」と「困りごと」について、あきる野市民の目線に立ち、統計データや実感等をもとに意見交換を実施



## 【将来都市像抽出のプロセス】

◆時代の潮流とまちづくりの課題等を踏まえつつ、各種市民参加（アンケート、ワークショップ等）の結果をもとに、10年後のあきる野市が目指すべき方向性やキーワードを抽出し、将来都市像を検討

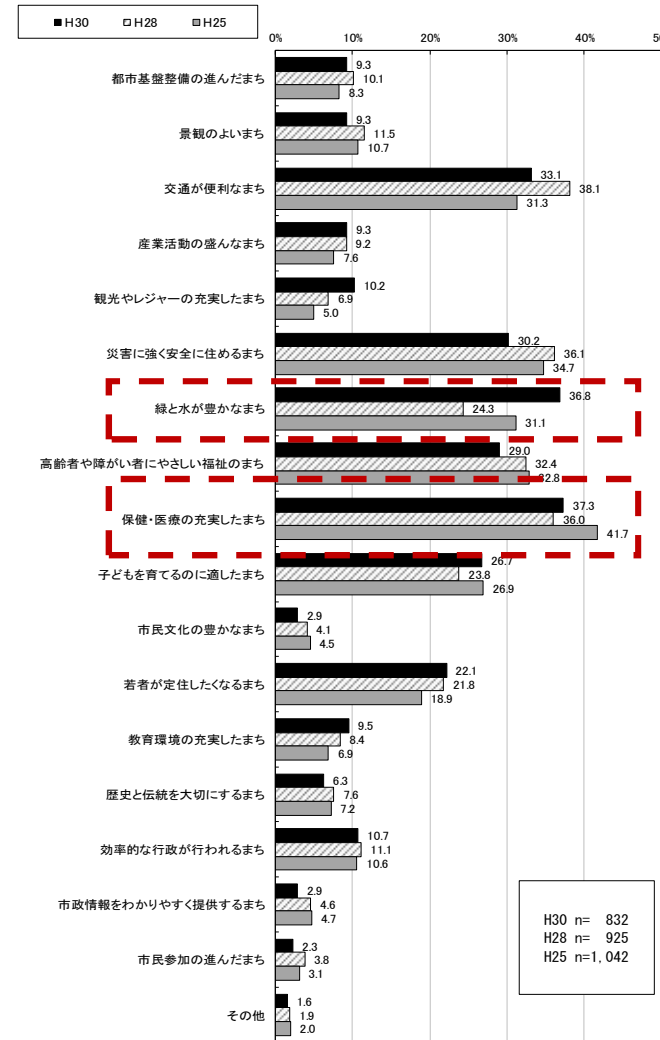


## 【あきる野市民が望む将来のまちの姿～各種市民参加結果のまとめ～】

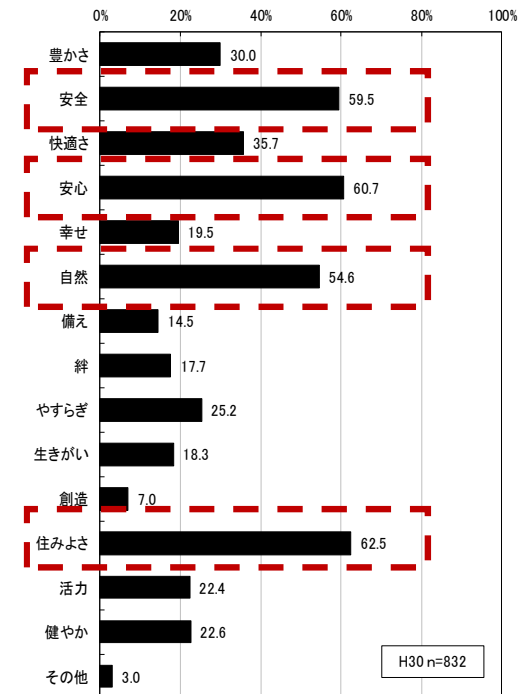
### ◆市民アンケート（平成30年度）

- ◆あきる野市をどんなまちにしたいかについて、「保健・医療の充実したまち」が37.3%と最も高く、次いで「緑と水が豊かなまち」が36.8%となっています。
- ◆あきる野市が目指していく将来像について、回答者の5割以上が「住みよさ」「安心」「安全」「自然」を挙げています。

○あきる野市をどんなまちにしたいか（該当するもの3つ）



○あきる野市が目指していく将来像（該当するものすべて）



## 【あきる野市民が望む将来のまちの姿～各種市民参加結果のまとめ～】

### ◆市民ワークショップ（令和元年度）

◆ワークショップで検討された将来像のうち、ワークショップ参加者の互選によって選ばれた将来像を対象としてキーワードを抽出すると、「活力」「自然」「住みよさ」「生きがい」「健やか」が多いです。

○将来像のキーワード（詳細は資料1参照）

	該当数	割合
活力	21	36.8%
自然	13	22.8%
住みよさ	12	21.1%
生きがい	10	17.5%
健やか	10	17.5%
絆	6	10.5%
快適さ	5	8.8%
安心	5	8.8%
交流	5	8.8%
文化	4	7.0%
創造	3	5.3%
支え合い	3	5.3%
豊かさ	2	3.5%
安全	2	3.5%
便利	2	3.5%
継承	2	3.5%
備え	1	1.8%
回答対象	57	

### ◆中学生ワークショップ（中学生友好親善交流会（令和元年度））

○10年後の私たちのまちをより良くするためのアイデアや方向性（意見概要）

分野	アイデアや方向性
都市整備	○空気がきれいで自然の香りがするよう、緑化活動をさらに広めるとともに、活動への参加を呼び掛ける。
産業振興	○自然と調和した都市化(総合スーパーの増加) ○地元の農産物を積極的に食べる。高齢の生産者にとって喜びや生きがいに つながり、高齢者に優しいまちになる。また、広く特産品が知れ渡って国 際色豊かなまちになる。 ○地産地消の推進 ○観光地が増え、外国人観光客が訪れるようになる。 ○農地の減少による農産物の生産減を抑制するため、農業を継ぐ人を増やす。 ○商店の減少を抑制する。
生活環境	○あきる野市ならではの自然の保護(例：森っこサンちゃんのモデルであるオ オサンショウウオ) ○自然を守り、活かすためにごみを減らす（ポイ捨てをしない、ボランティ アに参加）とともに、自然と触れ合う体験をする。 ○環境を守るため、省エネルギーとリサイクルを推進 ○地域の人たちとのつながりをよりふかめるため、あいさつ運動を展開する。
保健福祉	○高齢者や子どものための施設が増える。 ○あきる野市生まれの人が増え、地域社会の関係が良くなる。 ○少子高齢化、人口減少を抑制するため、あきる野市のPRをさらに行う。
教育文化	○地域での交流（あきる野三大祭の活性化） ○地域にある伝統的な祭りなどの行事を受け継いでいくことで、地域が一体 化し、次世代への継承という循環が生まれるとともに、行事へ参加するこ とであきる野市への郷土愛が生まれる（離れてもまた帰ってきたくなる）。 ○お祭りに参加して伝統を受け継ぐとともに、挨拶を積極的にすることで、 地域の輪を深め、交流を盛んにする。 ○小中一貫教育の推進（いじめをなくそう子供会議、小中一貫挨拶運動）
行財政	○財政難による市政の停滞を防ぐため、市内で働く人（働く場）を増やす。

## 【参考（市民ワークショップで検討された将来像（参加者間の互選により選ばれたものを抽出））】

項目	意見(赤字は事務局追記)	得票数	キーワード1	キーワード2	キーワード3	キーワード4
将来像	・伝承の中で社会性が学べる(他から越して来たので行事に参加することで地域になじめた)。	4	継承	絆	交流	文化
将来像	・交流機会の仕掛けを増やす。(高齢者福祉)	3	絆	健やか		
将来像	・通勤者にとって便利になってほしい。	2	便利	快適		
将来像	・外国人スタッフを見て、子どもたちのグローバルな視点が広がる。(産業振興・プリティッシュヒルズのような施設)	2	文化	交流		
将来像	・歴史を学び日本伝統を受けついでほしい。	2	伝統	継承		
将来像	・市全体で里山・農地公園として整備・PR。 ・既存の施設、産業、取り組みのネットワーク化。 ・一貫したコンセプトのもとでの一体的な起業支援。	2	自然	創造	活力	
将来像	・武蔵引田駅北口のような開発の推進(モデル街区化)・電線の地中化・歩車道の分離	2	活力	快適さ	安全	
将来像	・健康寿命の長さをアピールポイントに。	2	健やか			
将来像	・若い人と高齢者のシェアハウスはどうか。	2	安心	絆		
将来像	・地域のサロンを作る(図書室みたいなもの)。	2	健やか	生きがい		
将来像	・ニーズにあったマッチングの仕組みづくり。(高齢者福祉施設)	2	安心	安らぎ		
将来像	・若年層の定着。	2	住みよさ	活力		
将来像	・安全な通学路の整備。	1	安全			
将来像	・市役所北側は宅地ではない利用してほしい。都立公園の拡大とか、スポーツ施設とか、公共性の区域に利用してほしい。	1	自然	豊かさ		
将来像	・企業活動としての利用促進。	1	活力			
将来像	・休耕地や畑の利用を考えて。	1	活力			
将来像	・市民団体の活動が活発になるような動機付けを行うとともに、行政との協働をさらに進める。(自然環境の管理・活用)	1	自然	支え合い		
将来像	・市外から遊びに来る人が増える。	1	活力	創造		
将来像	・自転車、ウォーキングコースの拡大(種類、道幅)。	1	自然	活力	健やか	
将来像	・ボランティア精神を奪いすぎず支え合う(必ずしも無償ではない)。有償ボランティアによる輸送代替を行う。	1	快適さ	住みよさ	生きがい	
将来像	・簡単にできることから始める(旅行時の不在を伝える)。10年後なら携帯を介してコミュニケーションは取りやすくなるかも。	1	安心	絆	住みよさ	
将来像	・親世代と地域のきずなを高める。	1	絆	安心		
将来像	・元気高齢者の人材活用(介護予防と生活支援の複合型インフォーマルサービス)。	1	健やか	安心	生きがい	
将来像	・今あるもの(自然)を多くの人にどうみせるか、どう体験してもらうか。今のトレンドに結びつけて企画し、変化し続ける仕組みが必要。	1	創造	活力		
将来像	・合宿等できる宿泊施設の誘致(プリティッシュヒルズのような)。	1	活力	文化		
将来像	・あきる野市の知名度UP。	1	活力			
将来像	・ボランティアによる教育支援。	1	生きがい	支え合い		
将来像	・休耕地を再利用、管理人をつけるなど利用しやすい工夫を。	1	活力			

項目	意見(赤字は事務局追記)	得票数	キーワード1	キーワード2	キーワード3	キーワード4
将来像	・若い世代の人口の流入を目指す。	1	活力	住みよさ		
将来像	・あきる野市に旗ふりを(産業振興面におけるステークホルダー間の連携促進)。	1	活力			
将来像	・文化活動の奨励(補助)、空き家空き施設の利用も含めた施設整備(市全体に施設を点在させるため)。	1	豊かさ	生きがい		
将来像	・自然環境が維持できるレベルの人口。	1	住みよさ	自然		
将来像	・住宅周囲に森林を増やす。木に囲まれた環境。	1	自然	住みよさ		
将来像	・アクティブなニーズのある若者を呼びこむ。	1	活力	住みよさ		
将来像	・楽しく乗車ができる(車窓の景色(自然)を楽しむ、スタンションサービス、都内でも珍しい木造駅舎の武蔵引田駅の存在)。	1	自然	活力		
将来像	・アプローチの魅力化、自転車道としての整備。	1	快適さ			
将来像	・老若男女が楽しめるイベントを増やす。	1	絆	支え合い		
将来像	・外国人が参加出来るような場所や行事があれば良い。	1	文化	交流		
将来像	・財政の使い道を考える。	1	備え			
将来像	・自然を残そうとする住民意識の向上。	1	自然			
将来像	・若者の交流の場をつくる。	1	交流	住みよさ		
将来像	・通勤・通学の時間帯への鉄道接続の確保。	1	便利	快適さ		
将来像	・個人で生ごみを減らせる努力を少しずつ。	1	住みよさ			
将来像	・まだまだ知られていない観光資源のPR、訪れることができる環境の整備。	1	活力			
将来像	・ミニマム生活で満足するゆとりをもつ。	1	住みよさ			
将来像	・自然と共存できる工夫。	1	自然			
将来像	・川越の小江戸のようなマーケティング。	1	活力			
将来像	・高齢者が集まれるサロンのような場所。	1	健やか	生きがい		
将来像	・お年寄りが主役になる。	1	健やか	生きがい		
将来像	・元気な高齢者が元気で暮らせるような工夫。	1	健やか	生きがい		
将来像	・遊歩道に木のチップを使って整備している。	1	自然			
将来像	・「川」を起点とした交通(船)観光ルート。	1	活力	快適さ	自然	
将来像	・環境に配慮しつつ、「川」によるにぎわいづくり。	1	活力	自然		
将来像	・周辺住民も楽しめる環境(中長期的な視点)。	1	活力	住みよさ		
将来像	・買うだけでなくサロン(たまり場)など、複数の機能を兼ねた場づくり。	1	住みよさ	生きがい	健やか	交流
将来像	・高齢者の「ちょっとした」働く場。	1	生きがい	健やか		

## 【序論】

### ◆まちづくりの背景（市の概要、時代の潮流とまちづくりの課題）

#### 1. あきる野市の概要

- (地勢) 市域の約3分の2を山林・原野が占め、豊かな自然環境の中で、生活、文化、産業の基盤が展開
- (歴史) 豊かな水と自然の中に早くから文化がひらけ、縄文時代から古墳時代の考古学研究史に残る遺跡が多く発掘。平成7年に秋川市と五日市町が合併、あきる野市誕生
- (人口・世帯) いずれも増加率は鈍化しており、減少傾向に転じる兆候
- (産業構造) 産業別就業人口は第3次産業が最も多い。事業所数は卸売業及び小売業、従業者数は医療及び福祉が最も多い。
- (行財政)
- ①市民アンケート
    - ・重要度が高い一方、満足度は低い施策として、分野別に見ると「都市整備」（公共交通網の整備、計画的な土地利用の推進等）や「保健福祉」（高齢者が安心して生活できる支援の充実、障がい者が安心して生活できる支援の充実）に属する施策が多い。
    - ・あきる野市を「保健・医療の充実したまち」「緑と水が豊かなまち」にしたい意向が高い。
    - ・あきる野市が目指す将来像として「住みよさ」「安心」「安全」を挙げる意見が多い。
  - ②市民ワークショップ
    - ・「10年後、こうなるといいなあ」という将来像のキーワードとして「活力」「住みよさ」「自然」「生きがい」「健やか」が目立つ。
  - ③中学生ワークショップ
    - ・「10年後の私たちのまちをより良くするには」というテーマの下、産業振興、生活環境、教育文化に関するアイデアや方向性が見立つ。
  - ④職員意識調査
    - ・あきる野市が目指す将来像として「自然」「住みよさ」「安心」を挙げる意見が多い。
  - ⑤職員ワークショップ
    - ・あきる野市の個性（宝・困りごと）を検討。自然（水や緑）が充実し、豊富な文化資源や良好なコミュニティ機能があることで、観光だけではなく定住の面でも適しているといった「宝」が挙がる一方、広域交通（JR）や地域内交通（バス）の利便性の低さ、減少傾向にある商業施設、不法投棄等が「困りごと」として挙げられました。
  - ⑥財政状況
    - ・自主財源の割合は改善傾向にある一方、義務的経費の割合が高い。

#### 2. 時代の潮流とまちづくりの課題

- (1) 人口動態の変化とその影響
  - ・生産年齢人口の減少、老年人口割合の増加→地域や産業の担い手減少等による活力低下
  - ・核家族や高齢者独居世帯の増加→育児や介護等の面で孤立化傾向が強まる懸念
  - ・平均寿命・健康寿命→高齢者の幅広い社会参加の機会確保、介護と就労の両立等を実現する「働き方改革」の推進が必要
- (2) 社会経済情勢への対応
  - ・技術革新に伴う経済構造の変化（ICT、IoTの進展、シェアリングエコノミーの成長）→最新の技術やスキームを活用し、地域課題の解決や地域活性化に取り組むことが必要
  - ・価値観・ライフスタイルの多様化→創業・就労支援事業と子育て支援事業の複合的な展開による成果等を踏まえた働き方改革の推進、個々のライフスタイルの多様性の尊重、男女の役割分担の見直し等を引き続き推進することが必要
- (3) グローバル化→インバウンド観光等のトレンドを踏まえた体験型プログラムの検討・強化、プロモーション活動の推進、多言語化対応の強化等が必要
- (4) 戦略的なインフラマネジメント→公共施設等の管理と活用を着実かつ計画的に推進していくことが重要
- (5) 持続可能な社会づくり→「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」というビジョンを掲げるSDGsを踏まえたまちづくりを進める必要
- (6) 防災意識の高まり→行政だけではなく、市民も含めた平常時から体制作りを着実に進めることが必要

## 将来都市像

- (候補1) 安全・安心で住みよいまち あきる野
- (候補2) 保健・医療が充実し、緑と水が豊かなまち あきる野
- (候補3) 健やかで生きがいに満ち、豊かな自然に包まれて活力を育む 住みよいまちあきる野
- (候補4) 安全・安心で 自然がきらめき 魅力があふれる のどやかなまち あきる野

### 【将来都市像設定に当たっての基礎（参考）資料】

- ①市民アンケート（平成30年度、詳細は4頁）
- ②市民ワークショップ（令和元年度8～9月開催分、詳細は5・6頁）
- ③中学生交流会（令和元年度、詳細は5頁）
- ④職員意識調査（平成30年度）
- ⑤職員ワークショップ（令和元年度、詳細は資料1参照）

## あきる野市民憲章

- 清らかな川、緑豊かな山や丘陵を大切に守り育て、みずみずしいまちをつくります
- 一人ひとりを互いに尊重し、社会のきまりを守りつねに世界に心をひらいて前進する、連帯感あふれる明るいまちをつくります
- 子供やお年寄りをいたわり、思いやりのある若い力の育つ、さわやかなまちをつくります
- 歴史や伝統を大切にし、地域の個性を活かすとともに、産業のさらなる振興につとめ、たくましいまちをつくります
- スポーツや芸術を愛好し、健康で文化の香り高い、こころ豊かなまちをつくります

## まちづくりの方向性（基本視点）

- 視点1：都市整備**→広域交通基盤等を活かした計画的な土地利用、自然環境保全や身近な緑の充実、都市基盤の維持改善 等
- 視点2：産業振興**→職住近接型の自立都市を目指した産業の導入、市内の多様な産業活動の創出・継続・発展の支援、国内外から訪れる観光客の受入環境整備や体制強化 等
- 視点3：生活環境**→身近な安全対策の充実、時代の潮流に対応した持続可能な地域社会づくりの支援、ごみ問題や自然環境の保全などの環境施策の充実 等
- 視点4：保健福祉**→市民と行政との協働による児童・高齢者・障がい者それぞれの福祉の充実、保健・医療の充実によるいのちと健康を守る取組の推進、横断的な体制構築に向けた検討の推進 等
- 視点5：教育文化**→学校教育の充実、社会教育の充実 等
- 視点6：行財政**→行財政改革の推進、協働によるまちづくりや広域的な視点に立ったまちづくりの推進 等

人口の見通し

- ◆総人口、年少人口、生産年齢人口は同様に減少し続ける一方、老年人口は2025年をピークに減少に転ずると見込まれる。2030年には概ね75,500人になる見込み。
- ◆本構想に基づく各種施策を着実に実施し、出生率の向上及び現在の社会動態の状況を維持することにより、2030年に78,000人の人口を維持することを目指す。

土地利用

調整中